

農 試 第 1 8 0 号
令和7年5月14日

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長

農作物病害虫発生予察注意報第1号の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先 福井県農業試験場病害虫防除室

T E L 0776-54-9315

F A X 0776-54-5106

E-mail byogaichu-boujo@pref.fukui.lg.jp

URL <https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo.html>



令和7年農作物病害虫発生予察注意報第1号

コナガはアブラナ科野菜など農作物に被害を与える害虫である。本年、場内に設置したフェロモントラップにおける雄成虫の誘殺数は調査開始の4月上旬から多く推移し、5月に入り急激に誘殺数が増加した。今後、次世代幼虫による被害が懸念されることから、防除の徹底を図るため、注意報を発表する。

病害虫名 コナガ

1 注意報の内容

対象作物：アブラナ科野菜、花類

発生時期：幼虫加害初期は5月中旬から

被害程度：中発、局多発

発 生 量：平年、前年より多い

2 注意報発表の根拠

(1) フェロモントラップ雄成虫誘殺数は、平前年に比べて多く、5月2半旬まででは平年比18倍、前年比約3倍誘殺された。

(2) 5月の気温は平年並み、降水量は平年並みの予想で、本虫の増殖に不適でない。

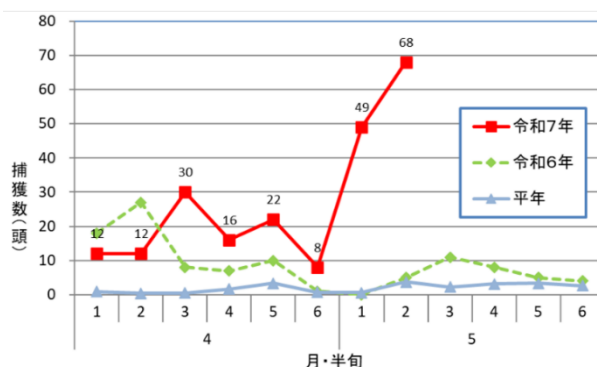


図1 コナガフェロモントラップ
(福井市寮町)雄成虫誘殺数

3 防除対策

- (1) 育苗前または定植時の薬剤処理を行い、初期防除を徹底する。
- (2) 老齢幼虫や蛹では薬剤の効果が悪いため、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。
- (3) 幼虫は葉の裏に生息するので、葉の裏まで薬液がかかるように散布する。
- (4) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統および薬剤の連用は避け、系統を変えてローテーション散布を行う。

コナガに対する薬剤感受性 (2015 年、2018 年病害虫防除室調査)

○低 (ほとんどの地域で防除効果 50%以下) …有機リン系、カーバメート系

○地域によって変動するもの…ジアミド系

○高 (ほとんどの地域で防除効果 80%以上) …ピリダリル、ピレスロイド系

※抵抗性の発達程度は地域により差があるため、効果が不十分であれば、使用を避ける (散布 2～5 日後に幼虫が多数生息している場合は、抵抗性が発達した可能性が高い)。

- (5) 対象作物により薬剤が異なるので、作物ごとに適切な防除をする。
- (6) 収穫残さは増殖場所になるため、できるだけ早く処分する。
- (7) 圃場周辺に自生しているアブラナ科雑草は、本虫の発生源となるので除草を心がける。

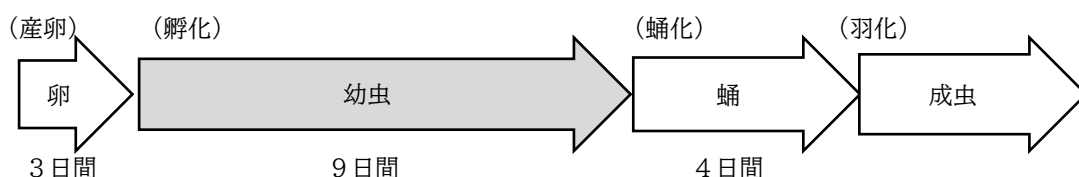


図2 コナガの生活環 (25℃の場合)



図3 コナガ卵
(0.5mm)



図4 コナガ幼虫
(老齢幼虫 1 cm)



図5 コナガによる
キャベツの被害



図6 コナガ成虫
(体長 1cm)

◎ 防除対策の詳細は、令和7年度農作物病害虫防除指針参照

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/021033/shokuryouanzen/boujoshishin.html>

